

平成28年度 秋田県立ゆり支援学校道川分教室 研究計画

1 研究主題

人との関わりを広げる授業づくり

～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～

2 主題設定の理由

分教室の児童生徒は、それぞれ思いをもち、周囲からの働き掛けに自分なりの方法で気持ちを表している。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しいため、私たち教師は児童生徒をよく観察し、心の動きや感じ方、思いに気付き、受け止め、思いに寄り添いながら応じる関わりを積み重ねてきた。

これまでの取組から、分教室の児童生徒の目指す姿は、自分の気持ちを表情や発声、身体の動きで表す姿、好きなことや得意なことに自分から楽しんで取り組む姿であることを確認した。学校生活の様々な活動を通して、周囲からの働き掛けを受け止め、感じた気持ちを表し、自分の思いを伝え、関わろうとする力を育むことが、卒業後の豊かな生活につながると考える。

これまで分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切に、昨年度は朝の活動・朝の会を取り上げて授業改善に取り組んだ。4つの観点から実態に合わせて焦点を絞った授業づくりを通して、周囲の状況や人への気付き、関心が高まり、友達や教師と共に学ぶ楽しさを感じ、一体感をもちながら相手と関わろうとする姿が見られた。

そこで、今年度はこれまで培ってきた人と関わる力を継続的な実践の積み重ねの中で広げていくことができるよう、昨年度とは異なる児童生徒や教師との集団学習である朝の活動・朝の会を取り上げ、「自分の気持ちを表し、伝える姿」に焦点を当てて取り組んでいきたい。朝の活動・朝の会は毎日取り組む活動であり、児童生徒と教師の一对一の信頼関係を基盤にし、見通しをもちながらグループの友達や教師と活動することができる。そこで感じた心の動きを表出につなげていき、自分の思いを受け入れてもらえるという安心感をもつことで、今もっている表出や発信がより豊かになり、教師から友達へと関わりが広がるのではないかと考える。

児童生徒の実態把握や目標設定、指導内容、そして個々の人との関わりを多角的、多面的に捉え、一人一人の変容を共通理解しながら評価を行い、観点を意識した授業づくりや授業改善に取り組むことで、人との関わりが広がるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

「自分の気持ちを表し、伝える姿」を目指した実践において、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりである4つの観点に沿って指導内容・方法の工夫、評価、改善を積み重ねることで、人との関わりが広がり、自分らしく豊かな生活を送ることにつながられるのではないかと考える。

4 研究計画

研究期間は2年とする。

○1年目（平成28年度）

「自分の気持ちを表す姿」に焦点を当て、児童生徒の実態把握及び「人と関わる姿」に関する共通理解を図る。また、目標、指導内容、題材構成の検討、4つの観点に基づいた授業の評価を行いながら、人との関わりを広げる授業づくりに必要な4つの観点に沿った支援を整理する。

○2年目（平成29年度）

1年目で取り組んだ「自分の気持ちを表す姿」を基に、周囲の人を意識した関わりへと広がるように、「自分の気持ちを伝える姿」に焦点を当て授業づくりを行い、児童生徒の変容や授業実践の積み重ねを通して、人との関わりを広げる授業づくりができたのかを評価する。

5 研究方法

（1）授業づくり

- ・今年度は朝の活動・朝の会を検証場面とし、授業づくり検討会において目標、指導内容、題材構成の検討をする。
- ・重度・重複障害児のコミュニケーションに関するアセスメントチェックリストを活用し、実態把握をする。
- ・昨年度の取組で整理したコミュニケーションの深まりへ向けた4つの観点に沿った支援を活用した実践をする。
- ・授業提示を通して、「自分の気持ちを表す姿」に焦点を当てた児童生徒の変容の共通理解、指導内容や手立ての評価を行い、授業改善に役立てる。
- ・公開授業研究会、校内授業研究会を実施し、外部専門家や校外からの参観者、校内職員等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討する。
- ・4つの観点を大切にしたい授業評価記録用紙を作成・活用し、指導後の評価をする。また、より授業に生かすことができるように様式の検討・改善をしていく。

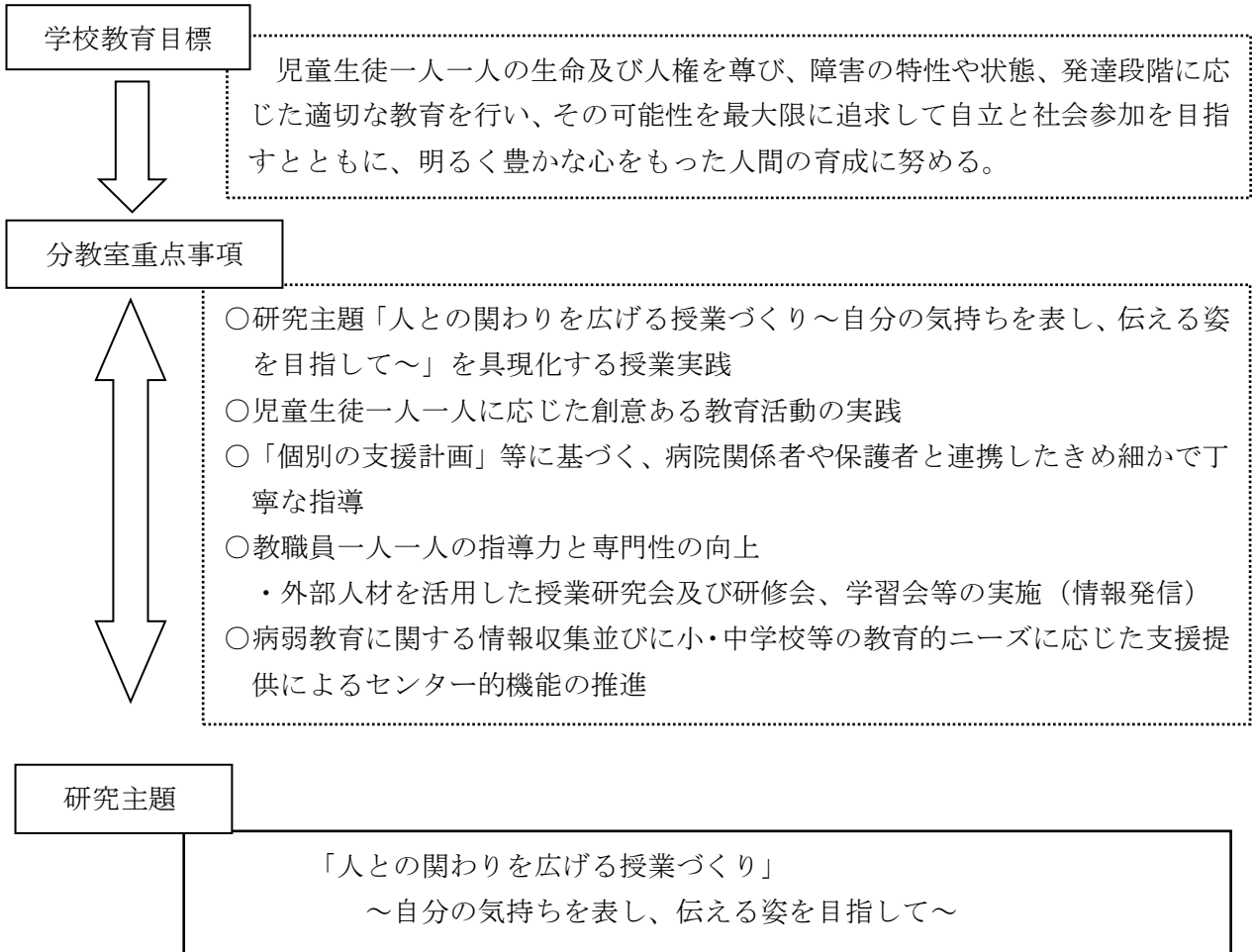
（2）ケース検討会（児童生徒一人につき年3回実施する）

- ・5月～個別の指導計画を基に児童生徒一人一人の実態、目標及び「自分の気持ちを表し、伝える姿」について共通理解を図る。
- ・9月～中間評価を行い、これまでの支援が適切であったかを検証することで、成果・課題から改善点を見出し次時に生かす。
- ・2月～児童生徒の様子や変容を基に評価・確認し、次年度に向けての方向性について検討する。

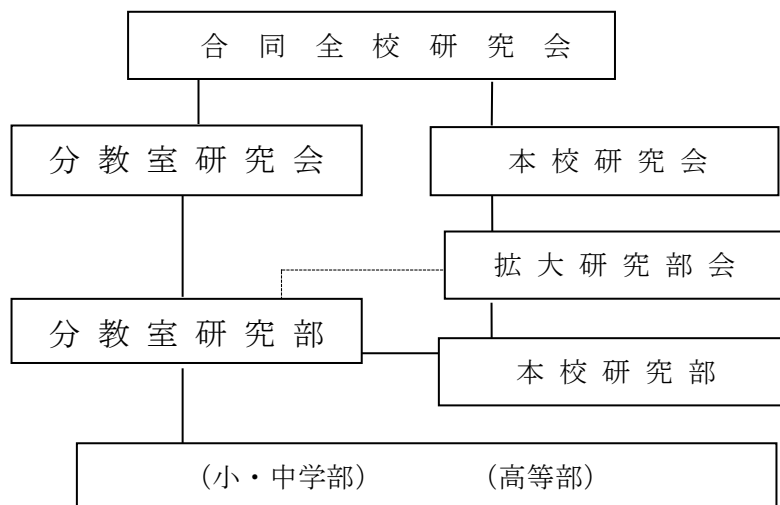
（3）自立活動学習会及び教材・教具研修

- ・校内外の人材を活用しながら、自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

6 全体構想図



7 研究組織



8 年間計画

()内の数字は日にちを表している。

月	研究会	授業研究会等	学習会・研修会	その他
4	研究会①(18) ・今年度の研究計画について		学習会①(15) ・自立活動について 学習会②(21) ・教材教具の紹介 学習会③(27) ・摂食指導について	
5	合同全校研究会①(9) ・本校・分教室相互の研究概要確認	ケース検討会Ⅰ(4/30～5/17) ・実態、目標、コミュニケーションの深まりについての共通理解		訪問教育担当教員講習会(25)
6		授業づくり検討会Ⅰ 指導案検討会① 事前授業研究会①		本校授業研究会①(27)
7		公開授業研究会Ⅰ(14)		本校授業研究会②(6) ③(12) 病弱教育研修会①(28)
8			教材・教具研修会①(29) ・講師：県立大職員 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会(3～4)	指導主事計画訪問(26)
9	研究会②(26) ・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善	ケース検討会Ⅱ(1～9) ・中間評価 授業づくり検討会Ⅱ	研修報告会① ・全病連報告 学習会④ ・東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会原稿読み合わせ	
10		指導案検討会②	東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会(6～7)	本校授業研究会④(13)
11		事前授業研究会② <u>授業研究会Ⅱ</u> ・指導主事による助言	学習会⑤ ・授業づくりについて 研修報告会② ・東北病連報告	本校授業研究会⑤(28) (指導主事要請訪問)
12	研究会③(19) ・研究の評価及び課題の整理	授業づくり検討会Ⅲ		本校授業研究会⑥(7)
1			教材・教具研修会②	病弱教育研修会②(6)
2	研究会④(2) ・研究のまとめと研究紀要に向けて	ケース検討会Ⅲ(13～24) ・児童生徒の変容、次年度のねらいについて		
3	研究会⑤ ・研究のまとめと次年度計画に向けて 合同全校研究会②(15) ・本校・分教室相互の研究のまとめ		研修報告会② ・校外研修・研究会報告	